

CSR/環境レポート

— *Create The Future Communication* —

2012年6月

(レポート期間:2011年4月～2012年3月)

 Create The Future Communication
日本コンベンションサービス株式会社

□ CSR/環境方針

【基本理念】

日本コンベンションサービス(JCS)は、コンベンション業界の草分けとして、-Create The Future Communication-を当社の経営理念に掲げ、コミュニケーションサービスを提供しております。

私どもは、CSR活動を通じて環境配慮に継続的に鋭意取り組み、環境配慮をはじめとした企画をご提案することに努め、持続可能な社会の実現に向け貢献いたします。

【行動指針】

1.マネジメントシステムの維持

環境法令や社会的責任に関連する法令を遵守し、環境配慮等のマネジメントシステムを整え、継続的な見直し・改善をはかります。

2.環境負荷の低減

環境負荷の低減や汚染の防止を目指し、資源・エネルギーをはじめとした、リデュース・リユース・リサイクルの3Rを念頭におき、環境配慮に努めます。

3.コミュニケーション活動

環境配慮等の取組について社員への浸透をはかり、社外関係者から協力を仰ぐなど、コミュニケーション活動を推進し社会に発信いたします。

制 定 日:2008年7月1日

最新改訂日:2011年1月21日

日本コンベンションサービス株式会社

代表取締役社長 近浪弘武

□ 会社概要・事業概要

会社名	日本コンベンションサービス株式会社 Japan Convention Services, Inc.
本社所在地	〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階 TEL:03-3508-1211(代) FAX:03-3508-0820
代表者	代表取締役社長 近浪弘武
創 立	1967年(昭和42年)12月7日
資本金	1億円
社員数	214名(2011年3月)
事業所 (エコアクション21登録範囲)	本社 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階 TEL:03-3508-1211(代) FAX:03-3508-0820 関西支社 〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神不動産淀屋橋ビル2階 TEL:06-6221-5930(代) FAX:06-6221-5938 北海道支社(札幌) 東北支社(仙台) 中部支社(名古屋) 九州支社(福岡) 銀座支店・ITセンター(東京) 京都支店(京都)・神戸支店(神戸)
管理責任者	コーポレートスタッフ本部 本部長 飛澤慶太
CSR/環境管理担当	CSR/環境推進事務局 平野孝至(CSR室長)
事業概要	事業の内容は、当社ホームページをご覧ください。(URL: http://www.convention.co.jp) ◇ コンベンションサービス ◇ 通訳サービス ◇ 翻訳サービス ◇ コンテンツ施策サービス ◇ 人材サービス

□ CSR/環境目標と実績

【CSR/環境目標と実績】次の3つの目標を掲げ、取組みを行い、下記のような成果を得た。

1. 環境配慮の仕組みの浸透 → ○: イベント・サステナビリティ認証(BS8901)に加え、エコアクション21を取得。社内浸透をはかっている。
2. 電力・紙等における省資源 → (下記に記載)
3. サービス等における取組 → ○: 業務上の主要サプライヤーに、環境配慮等の参画・協力を継続的に仰いだ。(グリーン調達を含む)

【電力・紙等の目標】

	2011年度目標	中長期目標(2015年度)
電力 (kWh/人)	-1%	-5%
OA用紙 (枚/人)	-5%	-5%

※1…基準値を2009年度実績(2009年4月～2010年3月)として算定。

人数は、常用雇用者数(FTE: full-time employees)による。

※2…水・ゴミ分別については数値目標を設定せず、日常の取組を行う。(テナントビルのため個別データなし)

【電力・紙等の実績】

括弧内=前年同期比
運用期間:
2010年10月-2012年3月

	2009年度通期		2010年度通期		2011年度通期		
	上期 4-9月	下期 10-3月	上期 4-9月	下期 10-3月	上期 4-9月	下期 10-3月	
電力	(kg-CO2)	219,566	241,579	217,497			
	(kWh)	521,427	558,668	500,457			
	(kWh/人)	2,556.0	2,598.5 (101.7%)	2,338.6 (91.5%)			
		1,310.0	1,246.0	1,357.2 (103.6%)	1,241.2 (99.6%)	1,196.5 (91.3%)	1,142.1 (91.7%)
	(枚)	5,303,248	5,732,604	6,282,243			
OA用紙 (枚/人)		25,996.3	26,663.3 (102.6%)	29,356.3 (112.9%)			
		13,023.3	12,973.1	13,804.2 (106.0%)	12,859.1 (99.1%)	14,755.1 (113.3%)	14,601.1 (112.5%)
	両面使用割合	13.8%	13.8%	15.3%	16.8%	16.0%	17.8%

※3…実績値は検針締日ベースで集計、電力のCO2排出量は地域別電力の排出係数を考慮して算出。
(電力以外の負荷、両面印刷による複数換算分は除く。)

※4…水・ゴミ分別については、日常的に取組を行っている。

※5…FTEの基準人数は会社概要に記載の人数による。(2009年度:204、2010年度:215、2011年度:214)

◆ 推移(電力・OA用紙) ○ 電力は、基準期間比91.5%で一定の成果

(運用の達成度など) △ OA用紙増の要因は、震災影響(会議の延期等)や大型案件集中等による。一方、両面印刷には、一定の成果あり。

□ 主な環境配慮等の計画概要

【計画概要】

1. 環境意識の向上、コミュニケーション

- (1) 「イベント・サステナビリティ認証(BS8901)」と「エコアクション21」を
 - ・当社が企画運営するコンベンション等に、イベントサステナビリティ認証の仕組みを導入。
- (2) CSR環境推進委員会を通じて、取組みを継続的に見直し、改善
 - ・環境配慮等の取組みを、CSR環境推進委員会や社内掲示を通じて、広く社内に浸透させる。



2. 電力・紙使用量等の節減

- (1) クールビズ期間を延長するなど、節電等に配慮
 - ・クールビズ期間を5月～10月に延長。空調の適温化や消灯の励行に努める。
- (2) 認証機能付プリンタの増設により、OA用紙使用量を節減
 - ・2in1プリント、両面プリントをより一層活用する。
- (3) 節水やゴミ分別について、日常的な取組みを行う。
 - ・本社オフィスにおいては水道に節水コマを使用、日常的に節水に努める。



3. サービスにおける主な取組、CSR/社会貢献など

- (1) 環境配慮に取り組みパートナーを継続的に尊重、サプライヤーの参画を拡充
 - ・業務上の調達に関わるサプライヤーに、環境配慮への参画を推奨する。
(特に、印刷制作・会場装飾の分野などについて推奨)
- (2) エコキャップ活動、カーボンオフセットへの協力
 - ・エコキャップ活動や制作物へのカーボンオフセット利用をに継続的に、社会貢献の一助とする。



□ 環境配慮等の取組結果と評価、今後の取組

イベント・サステナビリティ認証(BS8901)とエコアクション21の取得により、組織の環境配慮意識が高まりつつあります。環境・社会・経済の各側面について配慮するという考え方のもとに、省資源のための取組みも行い、節電などについても、一定の成果をあげることができました。

当社業務との関連性については、主要なサプライヤーに対する環境配慮への参画・協力を仰ぐなど、パートナーシップを尊重した取組みを、サプライヤーとの綿密な連携関係のもと、継続的に進めています。

当社業務の好例として、2011年7月京都で開催された第23回国際血栓止血学会(ISTH2011、日本組織委員会会長池田康夫氏(早稲田大学教授))が「2011 IAPCO Award」を受賞。IAPCOは会議運営会社の国際組織(本部チューリッヒ)であり、今回の受賞に際して、「日本における初の受賞で業界における震災復興の意味もあり、二つの意味で受賞にふさわしい」とのメッセージが IAPCO から寄せられました。

また、東日本大震災からわずか半年後、仙台で参加者5,000名を超える規模の「第19回日本乳癌学会」が成功裡に開催されました。震災直後の学会中止の危機を乗り越えて、多くの困難があつたにもかかわらず学会が開催されたことに対し、学会会長大内憲明教授に観光庁長官より感謝状が贈られました。

こうした栄えある会議の準備・運営を担当させていただいたことは、当社にとりましても実に名誉なことでした。

今後は、当社の持ち味である誠実さを引き続き堅持しながら、大震災以降にその重要性がより一層認識されている「安全配慮」あるいは「社会への貢献」をはじめとした活動について、サステナビリティへの取組みを通じ、一步一步着実に実現していきたいと思っております。

□ 環境関連法令等の遵守状況

【遵守状況】

適用される主要な環境関連法令等については適切に遵守しており、法令等の逸脱はありません。

(下記に、■:遵守/□:未遵守 として示します。)

【主な関連法令】

■廃棄物処理法 ■家電リサイクル法 ■省エネ法 ■騒音規制法 ■消防法 ■労働安全衛生法など

□ 代表者による評価と見直しの結果

【マネジメントレビューにおける主なアウトプット】(2012年3月実施)

イベント・サステナビリティ認証(BS8901)をアジアで初めて取得したことに続き、エコアクション21も取得。当社業務にあわせ、2つの認証の特性を生かしながら、CSR/環境配慮の実現に努めています。

CSR/環境の取組みについて、環境側面はもとより社会側面や経済側面についても配慮するという理念のもと、「CSR/環境方針」や「JCS環境配慮ガイドライン」等の仕組みを継続的に改善しています。

今後も、目標の達成度評価および好事例や課題が継承されるよう、仕組みに盛り込むこととしていきたいと思っております。

□ CSRに関連する活動 - グローバル・コンパクトへの参画 -

当社は、代表者が表明する「CSR/環境方針」のもとに CSR活動に取り組んでおり、環境配慮・人権尊重・労働基準・腐敗防止などの原則にもとづく国連グローバル・コンパクトのアプローチを尊重し、関連する活動を継続して支持しています。

(「CSR/環境方針」については、本レポートの冒頭ページをご参照ください。)

1. 環境配慮

当社のCSR/環境レポートに記載のとおり、当社の事業活動を通じて、環境配慮に鋭意取り組んでいます。また、当社と協力関係にあるサプライヤーについても、環境配慮のための取り組みを推奨しています。

2. 人権尊重

国際的に宣言されている人権の保護を支持し、関連する法令その他のコンプライアンスに留意するとともに、ステークホルダーや関連する当事者との対話などにおいても、公平性や多様性を尊重しています。

3. 労働基準

業務における労働安全に配慮するとともに、雇用機会の均等をはじめとした労働上の権利を適正に保護し、業務に携わる関係者にとって働きやすい業務環境を整え、より良いサービスの提供をはかります。

4. 公正取引と腐敗防止

当社におけるサービスの提供に際しては、お客様から業務を受託する段階から当社と協力関係にある業務委託先への協力依頼までの一連のサプライチェーンについて、公正な取引を殊に尊重しています。

さらに、これらの活動の成果を測定するために、環境側面をはじめ社会側面・経済側面などにも配慮しつつ、マネジメント・レビューを定期的実施し、持続可能性についての課題の進捗も踏まえて、継続的な改善をはかっています。

以 上